

私立大学研究ブランディング事業

29年度の進捗状況

| | | | | | |
|------------------------|--|-------|------------|------|-------|
| 学校法人番号 | 131031 | 学校法人名 | 学校法人女子美術大学 | | |
| 大学名 | 女子美術大学 | | | | |
| 事業名 | 染織文化資源研究拠点の形成 | | | | |
| 申請タイプ | タイプA | 支援期間 | 3年 | 収容定員 | 2440人 |
| 参画組織 | 芸術学部デザイン・工芸学科、美術学科、アート・デザイン表現学科 | | | | |
| 事業概要 | <p>本学芸術学部工芸学科刺繍領域の歴史と伝統の中で培われてきた染織文化財の修復技術とその知見の蓄積を礎とし、ファインアート領域における素材研究、色彩学等他領域における研究等を学内横断的に結びつけ、「染織文化資源研究」の推進を本学独自の使命とする。津波被災文化財に実施している国内初の洗浄技術と理論の提示、地域文化資源の修復等を通じ地域貢献の一翼を担うとともに、今後の教育へのフィードバック、素材研究、人材育成を実行する。</p> | | | | |
| ①事業目的 | <p>本学は日本唯一の刺繍の専門領域を持ち、伝統的な日本刺繍の技術伝承にとどまらず、染めや織を含む工芸研究によって、新たな美術刺繍の創造と染織文化財修復の両分野において、教育と研究、社会貢献の基盤を作り評価を得てきた。この実績を活かし、特長を強化して、染織文化資源について他の研究分野と融合した総合的な研究を行う「女子美術大学染織文化資源研究所」を発足する。</p> | | | | |
| ②29年度の実施目標及び実施計画 | <p>【染織文化資源保存修復部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火気を完全分離した染織文化財修復室整備の完了 ・染織文化資源における非破壊による染料分析方法の構築 ・染織文化資源安定化処理後の経過観察方法の確立 ・染織文化資源保存教育の地域(東日本大震災津波被災地域)への浸透 <p>【染織文化資源研究部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学および他機関が所蔵する染織文化資源の伝統技法の解明 ・新たな染料として期待される鉱物資料の研究、鉱物顔料のナノ化 <p>【染織文化資源保存修復部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新染色室整備を完了し、修復作業室・洗浄室・染色室の各室内で完結する環境での研究開始 ・本学および他機関所蔵染織文化資源の2D分光放射計の導入による測定 ・安定化処理後の保存環境整備、資料の経過観察により残留塩化イオン濃度の基準値を検証 ・津波被災の軽度な資料について、現地処理のための教育普及の実施 <p>【染織文化資源研究部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学及び他機関所蔵の染織文化資源の伝統技法解明のための調査、模造作品制作(2年目) ・有毒物質を含む化学染料の代替となる色料を選定(1年目)、実験実施 | | | | |
| ③29年度の事業成果 | <p>○保存修復技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修復環境の改善 ・染織文化資源の洗浄の実施 ・「染織品の保存と修復」リーフレット作成 ・海外の修復施設の見学 <p>○技術を伴った研究者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の対象者と女子美術大学美術館所蔵の小袖裂3点の刺繍と台裂の損傷を調査のうえ立案した修理計画に基づく本格修理を実施 <p>○染織文化資源のひとつでもある天然顔料についてのサブミクロン・ナノ領域粒子による応用創作研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブミクロン天然顔料粒子を作成し工芸分野での基礎的実験を実施。試作品制作。 ・大阪大学接合科学研究所スマートコーティングプロセス分野との共同研究による分散ナノ粒子を使用し成果をあげている。 <p>○天然染料の非破壊分析技術確立と体系化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分光測定による染織文化財の洗浄前後の比較 ・天然染料の紫外線による退色分析 <p>○染織文化資源の制作技術と材料の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院「素材・技法演習」において、本学美術館の実物資料を熟覧させ、その技法やデザインを検討した。熟覧した作品から得た知見に基づき、各自制作を行った。 ・大学院「創作応用研究」において、現在は使用されることの稀な刺繍技法を本学美術館の資料を基に研究し、京都に残る数少ない制作者へ調査を行い指導を受けた。その結果を学生がまとめ本学紀要に投稿した(・V&A美術館所蔵の染織品を熟覧調査し、日本の同年代の刺繍技法、デザインの違いを確認 ・JAM小袖、振袖の状態調査と修復の必要なもの検討、収蔵形態の見直しを行った。 ・海外へ流出した小袖の調査を行った。(イギリス V&A) ・JAM未調査の小袖裂の調査を行った。 ・幕末期の夏の帷子に残る流行の形跡調査を行った。(遠山記念館、国立歴史民俗博物館) ・本学工芸専攻の教育、本研究において重要な基盤設備である大型ステンレス水槽を設置。 ・V&A美術館所蔵のブロックプリントのテキスタイル、版木の調査、ウィリアムモリスの資料館見学を行い、ブロックプリントの染色工程、材料の調査を行った。 | | | | |
| ④29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果 | <p>(自己点検・評価)</p> <p>本学を代表する研究事業として順調に研究活動を遂行している。29年度の研究設備整備計画を完了し、研究活動を高度化することができた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>東京国立博物館 学芸研究部 保存修復課長 富坂賢氏、公益財団法人金沢芸術創造財団 金沢卯辰山工芸工房館長 川本敦久氏、メトロポリタン美術館終身名誉会員 梶谷宣子氏、東京国立博物館名誉客員研究員 小笠原小枝 を外部評価委員長として依頼のうえ承諾をいただく。</p> <p>千總文化研究所と包括連携協定を締結。研究所長に本学施設設備を研究内容を紹介。</p> | | | | |
| ⑤29年度の補助金の使用状況 | <p>主な施設設備として下記を導入</p> <p>デジタルマイクロスコープ VHX-6000 一式導入</p> <p>トプコンテクノハウス製 2D分光放射計 SR-5000HS 導入</p> <p>大型ステンレス染色水槽一式導入</p> <p>箱型大気炉 NL2045FOP 導入</p> <p>インクジェット卓上実験装置 Labojet-600 Standard 一式 導入</p> <p>他研究事業計画に基づき適切に執行した。</p> | | | | |